

第4回埼玉フェスタを終わって 放送大学埼玉CSC交流会代表 笹原誠二

昨年引き続き、埼玉フェスタ（大学祭）が十月九日（土）、十日（日）の2日間、放送大学埼玉学習センターで盛大に開催され、無事成功裏に閉幕いたしました。

この埼玉フェスタにおいて、埼玉学習センター所属の学生団体、同窓会、教職員の3者が一体となつて力を合わせ、密接な連携のもとに、全スケジュールを無事遂行することができましたことは大きな喜びであります。

石学長の公開講演会「郵政民営化のゆくえ」は、身近でかつ関心の高い話題で、参加者も多く、白熱した議論も展開され、大いに盛り上がりました。また、各団体（サークル）主催の多彩なイベントの開催は、その特徴と独特のアイデアを生かした催しが続出し、放送大学の学生はもちろんのこと、来客の方々にも埼玉学習センターの取り組みの魅力・素晴らしさを十分周知させることができたのではないかと思います。

そのほか、個人作品の展示、団体活動展示、バザー、お茶席等の各イベントも多くの人々の関心と興味を深め、当センターの活動の底力を感じさせるに十分でした。

最後に、この埼玉学習センターの各サークル、同窓会、センター教職員そして多くの参加者の皆さんのご協力とご支援に心より感謝いたしますとともに、厚くお礼申し上げます。

フェスタ会場スナップ



投稿コーナー

細道あちらこちら

若松 豊

芭蕉は『笈の小文』の中で紀行文を書く心構えについて種々述べた後「忘れぬ所々後や先やと書き集めはるぞ、なほ酔へる者の妄語にひとしく、いねる人の謔言するたぐひに見なして、人また妄聴せよ」と書いておられるが、そのひそみに倣って私の拙い細道体験をいくつか紹介したい。

『おくのほそ道』ほど、観光産業に寄与している文学作品は少ないだろう。東北・北陸を旅すると、到る所で芭蕉の記念館や句碑に出会うことになる。句碑にいたっては全国で約三千を数えるそうであるから、観光地ばかりでなく普通の街の中にもたくさん見受けられる。専門の学者や俳句の先生は研究の必要があつて現地を訪れるのは当たり前として、一般の方々でも『おくのほそ道』をたどる旅を楽しむ人は多い。その中で特に熱心な方お二人をまず紹介したい。

そのお一人は竹馬で奥の細道を歩いた飯塚進さん。一昨年の3月30日、幸手の権現堂桜並木の下を竹馬にのって通り過ぎてゆく飯塚さんに偶然お会いした。その後、飯塚さんは昨年5月31日、無事奥の細道結びの地大垣に到着されたとの報道があつた。千葉県在住の元中学校長で日本竹馬協会の代表を務められており、72歳での快挙である。世の中にはすごい人がいるものだと思帽するばかりである。

もう一人は弘中孝さん。弘中さんは北九州工業高等学校を定年退職された

さんはその成果を『石に刻まれた芭蕉』という分厚い書物にまとめられた。私はそのような方々の足元にも及ばないが、所用や観光で『おくのほそ道』の経路近くを通る時は、暇があれば所々立ち寄ることにしている。

小松の多太神社

芭蕉は、木曾義仲のファンで、義仲の菩提寺義仲寺に自分を葬るよう遺言して義仲の墓の隣に眠っている。

その木曾義仲ゆかりの多太神社は、JR小松駅からほど近い閑静な住宅街の中に鎮座している。鳥居の前に兜のレプリカがあつて、鳥居をくぐると斎藤利隆の像と芭蕉の像、それに芭蕉の「むざんやな甲の下のきりぎりす」の句碑がある。この兜は斎藤利隆の（現在の熊谷市）を本拠とする武士であつた。かつて父親が戦いに破れ、孤児となつた幼少の木曾義仲を助け、信州の木曾へ逃げてやつたことがあつた。月日が過ぎて平家追討の木曾義仲軍は北陸路を京へと進軍していた。倶利伽羅谷で平家軍を破り、更に敗走する平家軍を追走していた義仲軍は、篠原（現加賀市）の戦いで平家軍の殿を務めていた立派な兜の老武士を討ち取る。その首級を檢分していた義仲は、それがかつての恩人で今は平家方に属していた実盛であることを知って涙を流し、その兜をこの神社に奉納したものである。

この様子は『平家物語』に「実盛最期」として描かれている。奥の細道の旅でこの神社を訪れた芭蕉はここでもまた涙を落としている。（続く）

インターネット

配信科目について

放送大学の授業科目のうちラジオ科目のほとんどとテレビ科目の一部については、インターネット配信を行っております。キャンパスネットワークからのアクセスでも視聴することができ

通信指導問題

の提出を忘れずに！

サークル案内

サークルおのみや

- 十二月十四日（火） 泉岳寺・義士祭
- 十二月二十五日（土） 行品川駅に集合
- 一月八日（土） 「新年昼食会」 大宮駅西口の「木曾路」において開催
- 十二月十四日（火） パート2階入口集合

江戸時代の古文書を読む会

- 勉強会の日程
- 十二月十一日（土） 一ノ関藩、田村家文書、津山城受渡
- 十二月二十五日（土） 同上

未来の会

- 十二月二十一日（火） パソコン教室
- 一月十一日（火） 勉強会「奥の細道」
- 十二月二十五日（土） 講義 野口テル子（絵手紙教室公認講師）
- 一月八日（土） 講義 シーノビル
- 一月二十二日（土） 宇宙劇場

詩歌・川柳

俳句

秋時雨言い募る娘の声遠く 静彥
秋の蝶旅の途中の宿りかな 安代
月明かり木漏れ日のごと透かし来ぬ 保子
葉の陰で色づく柿の実のたわわ 智子

川柳

芋虫に食い尽くされし蒟蒻葉 八重子
健康は異常なしなり秋刀魚食む 春江
盆栽のはぜも色づく小家かな 光娥
一分銀旧家において稲実る とく江
指先に残る香りや菊贈 十詩

はやぶさ7年の軌跡

十一月十一日の熟年会の勉強会は「はやぶさ7年の軌跡」と題して、JAXAの若手研究員の小野瀬直美氏を招き話を聞いた。将来を期待される若手らしく熱のこもった分かりやすい講演であつた。さすがJAXAのH

貴方ならどうしますか

健康体操 高澤秀昭
突然の緊急時に背を向けてはいけません。9月22日健康体操研究会の特別企画として心肺蘇生法とAEDの使い方の特別講

よもやま話

昨日、韓国の古文書『儀軌』を引き渡すという報道があり問題になろうとしている。

宮内庁所蔵のもので、政府はAPEC、TPP参加検討などで韓国に支援の期待としてお土産の考えなのだろうか？

賠償請求権の放棄をしていて我が国も私的財産を放棄している。放棄しているのに返却でなく「引き渡し」としている。

しかし我が国の古文書も膨大な量が韓国に残っていることも事実で、対馬藩宗家の一万点以上の大量の古文書が韓国にある。韓国側は我が国の古文書を引き渡してくれるのだろうか？

外務省はこの事実を知らなかったようだ。すでに外交チャンネルに載せて進行しているのに調印は阻止できないということだそうだが、皆さん どう思う？

編集後記

公園の落ち葉を踏みしめながら、駆け足で去りゆく秋を感じています。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

第12号は1月下旬に発行予定です。詩歌、随想などの投稿をお待ちしています。